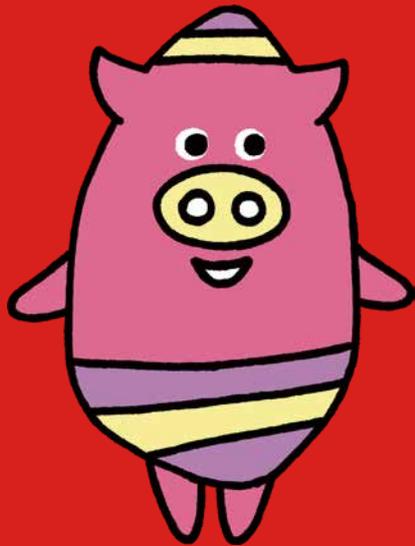




読谷村



# 防災 マップ



令和6年3月

# 防災マップの使い方

この防災マップは、災害の発生により被害が想定される内容、場所を事前に知っていただき、災害に備えていただくことを目的としています。

## 防災マップの使い方

### 1. まず、自分の位置を確認しましょう。

災害が想定される位置を確認しましょう。自分がいる場所は、どのような災害が予想されるのかを、地図をみて確認しましょう。



### 2. 次に、近くの避難所等を確認しましょう。

災害に応じた一番近い避難場所・避難所を地図で確認しましょう。



### 3. 災害想定区域を避けて、避難経路を決めましょう。

避難経路を地図で確認し、土砂災害や津波などの災害が想定される場所を避けて避難できるようにしましょう。



### 4. 実際に避難経路を歩いてみて、安全を確認しましょう。

避難経路に危険な場所がある場合には、避難経路を見直しましょう。



## 目次

避難情報・防災気象情報.....	1
読谷村全体図・避難場所・避難所一覧....	2～3
防災マップ.....	4～25
風水害・台風.....	26
洪水・土砂.....	27
地震・火災.....	28

津波.....	29
防災対策&チェック.....	30
非常時持ち出し品の準備&チェック.....	31
感染症対策・被災したときの生活再建.....	32
防災に関する知識.....	33
防災メモ.....	34

発行：読谷村 作成：令和6年3月

「この地図は、読谷村長の承認を得て、同村発行の都市計画基図（1/2,500）を使用し、調製したものである。（承認番号）読都第589号」

測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 5JHs 167-122号

「JIS Z 8201 広域避難場所 避難所（建物）津波避難ビル 津波避難場所」

（禁無断複製）©2024 ZENRIN CO., LTD.

# 避難情報・防災気象情報

## 村が出す避難情報と国や県が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いた避難指示などの避難情報を発信します。**警戒レベル5【緊急安全確保】**、**警戒レベル4【避難指示】**または**警戒レベル3【高齢者等避難】**が発令された場合は、避難行動をとります。

警戒レベル	避難行動等	読谷村が発令	防災気象情報 (気象庁等が発表)	気象状況の目安
警戒レベル <b>1</b>	災害への心構えを高めましょう。		早期注意情報	大雨の数日～ 約1日前
警戒レベル <b>2</b>	避難に備え、防災マップなどにより 避難行動を確認しましょう。		大雨注意報 洪水注意報	大雨の半日～ 数時間前
警戒レベル <b>3</b>	危険な場所から高齢者、障がいのある人、乳幼児 など、避難に時間のかかる人は避難してくださ い。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難	氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報	大雨の数時間～ 約2時間前
警戒レベル <b>4</b>	危険な場所から全員避難してください。	避難指示	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等	大雨の2時間前～ 大雨
警戒レベル <b>5</b>	命の危険！ 直ちに安全を確保してください。	緊急安全確保	氾濫発生情報 大雨特別警報 等	数十年に一度の大雨

- ◎読谷村が発令する避難情報等に注意してください!
- ◎避難情報の確実な収集手段を確認しておきましょう。

- 読谷村公式ホームページ
- 読谷村公式LINE
- 防災行政無線 (暴風雨の際は聞きづらくなります。ほかの手段を併せて検討してください。)
- 防災ラジオ
- 防災行政無線登録制メール

### 自主避難 について

### 危険を感じたらすぐに避難しましょう

局部的集中豪雨のような、突発的な異常気象の場合には、村からの避難情報が間に合わないケースもあります。その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、避難所などへ自主的に避難しましょう。

## 避難に関する2つの情報

災害の危険が迫って居住者の避難が必要になった場合に、避難に関する情報が発令されます。2種類の情報は状況の深刻度に応じて出されるので、各情報に応じた避難行動をとります。

### 1 高齢者等避難

人的被害の発生する危険性が高まった状況。



- 避難するのに時間がかかる高齢者など災害時要配慮者やその支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常時持ち出し品の用意など避難の準備を始めます。

### 2 避難指示

人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況。



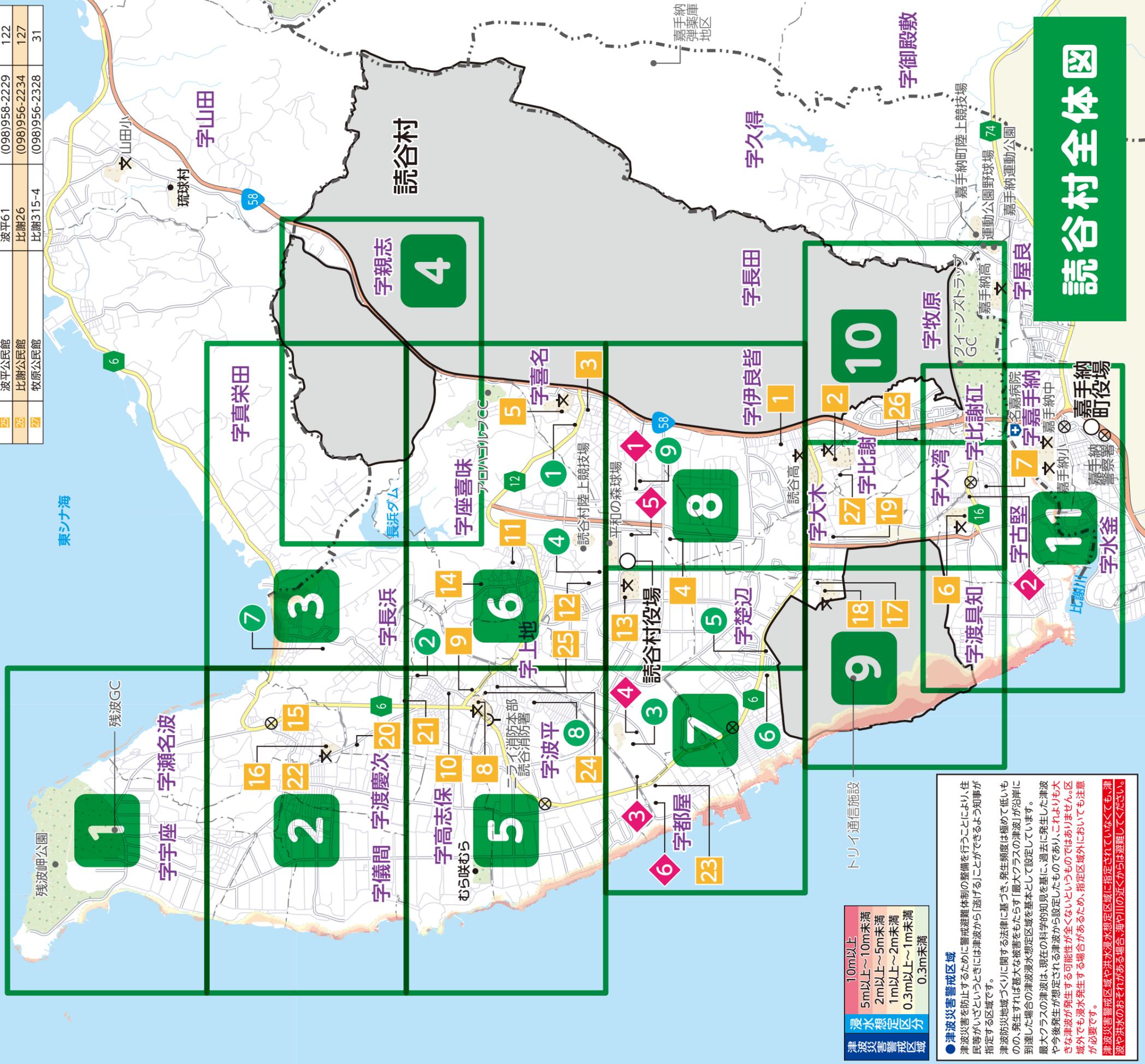
- 避難中の住民は直ちに避難をおこなってください。
- まだ避難していない住民は直ちに避難します。万一避難する余裕がなければ、命を守る最低限の行動を取ります。

No.	指定緊急避難場所	所在地	管理担当 連絡先	対象とする異常な現象の種類				想定 収容人数 (数値)
				洪水	土砂	高潮	地震 津波 火事	
1	観音公園	喜名448-1	(098)982-9220	○	○	○	○	1076
2	宇座東公園	高志保1601	(098)982-9220	○	○	○	○	460
3	セーラの森公園	座喜味1975	(098)982-9220	○	○	○	○	936
4	読谷村運動広場・読谷平和の森球場・読谷村陸上競技場	座喜味2976	(098)982-9231	○	○	○	○	28930
5	楚辺東公園	楚辺1272-5	(098)982-9220	○	○	○	○	621
6	有限会社力デナ自動車学校	楚辺1512	(098)956-2363	○	○	○	○	1796
7	長浜地区運動広場	長浜364	(098)982-9215	○	○	○	○	675
8	井之原公園	波平424-2	(098)982-9220	○	○	○	○	675
9	風水ふれあい広場	喜名2272-1	(098)982-9201	○	○	○	○	1759

No.	指定福祉避難所	所在地	管理担当連絡先	想定収容人数 (数値)
1	社会福祉法人祥永会 小規模多機能型居宅介護事業所 よみたんふれあいの里	喜名2272-4	(098)958-7770	20
2	みらい児童館	古堅867-2	(098)921-5102	60
3	社会福祉法人祥永会 読谷の里	座喜味1875-1	(098)956-2000	70
4	読谷村老人福祉センター	座喜味1976	(098)921-5006	130
5	読谷村健康増進センター	座喜味2901-1	(098)982-9100	100
6	社会福祉法人 沖縄県福祉事業団 よみたん救護園	都屋167	(098)956-4111	75

※福祉避難所 ……福祉避難所とは、高齢者、障がい者などの要配慮者のための避難所です。

No.	指定一般避難所	所在地	管理担当 連絡先	想定 収容人数 (数値)
1	伊良皆公民館	伊良皆177-3	(098)956-2235	205
2	古堅中学校	伊良皆297	(098)956-2221	2683
3	喜名公民館	喜名2207	(098)958-2236	143
4	読谷村地域振興センター	喜名2346-11	(098)958-7240	711
5	喜名小学校	喜名401	(098)958-2405	2022
6	古堅南小学校	古堅612-1	(098)956-1129	2521
7	古堅公民館	古堅75-3	(098)956-2238	108
8	読谷小学校	高志保1277-1	(098)958-2403	2007
9	読谷村保育所	高志保1406	(098)958-3024	249
10	高志保公民館	高志保260	(098)958-4455	261
11	座喜味公民館	座喜味154	(098)958-2228	190
12	読谷村体育センター	座喜味2975	(098)982-9231	243
13	読谷中学校	座喜味2976-2	(098)958-2303	3011
14	世界遺産座喜味城跡 コンタンザミュージアム	座喜味708-6	(098)958-2254	519
15	瀬名波公民館	瀬名波138	(098)958-2594	105
16	渡慶次小学校	瀬名波510	(098)958-2503	1704
17	読谷村南保育所	楚辺1030-1	(098)956-4179	163
18	古堅小学校	楚辺999-1	(098)956-2158	1846
19	大木公民館	大木294	(098)956-2020	141
20	儀間公民館	長兵1409	(098)958-3002	55
21	宇座公民館	長兵1840-2	(098)958-2231	97
22	渡慶次公民館	渡慶次180	(098)958-4922	141
23	読谷村生き生き健康センター	都屋167-2	(098)957-3366	512
24	読谷村立図書館	波平37	(098)958-3113	265
25	波平公民館	波平61	(098)958-2229	122
26	比謝公民館	比謝26	(098)956-2234	127
27	牧原公民館	比謝315-4	(098)956-2328	31



津波災害警戒区域  
 10m以上  
 5m以上～10m未満  
 2m以上～5m未満  
 1m以上～2m未満  
 0.3m以上～1m未満  
 0.3m未満  
 浸水想定区分

●津波災害警戒区域  
 津波災害を防止するために警戒避難体制の整備を行うことにより、住民等がいざというときには津波から「逃げる」ことができるよう知事が指定する区域です。  
 津波防災地帯づくりに関する法律に基づき、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす「最大クラスの津波」が沿岸に到達した場合の津波浸水想定区域を基本として設定しています。  
 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性が全くないというものではありません。区域外でも浸水発生する場合がありますため、指定区域外においても注意が必要です。  
 津波災害警戒区域や洪水浸水想定区域に指定されていなくても、津波や洪水のおそれがある場合、海や川の近くからは避難してください。

# 読谷村全体図

# 風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

## 大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

### 大雨注意報

大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合

### 大雨警報

大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合

### 大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合

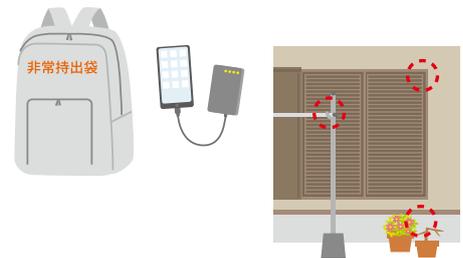
### 暴風警報

暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予想される場合に発表



## 台風対策

- 窓や雨戸はしっかりと閉める。
- 鉢植え等、風で飛ばされそうなものは、飛ばされないように固定したり、家の中へ格納する。
- 停電時に備え、携帯ラジオ、懐中電灯、ろうそくなどを用意する。
- 近所の避難場所と避難経路を確認しておく。



## 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。  
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

### 大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

### 強さの階級分け

(平均風速:m/秒)

階級	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

## 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。  
発生の予測は比較的困難で、河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 村や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。

- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう!



# 洪水・土砂

## 川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれて起きる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので最大の注意が必要。



### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まって起きる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



## 土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難所・避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

### 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域。

### 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害が発生した場合に、建築物の損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。

## がけ崩れ（急傾斜地）

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



## 洪水・土砂災害での避難の仕方

### 歩ける深さは50cm!!

歩ける水深は平均約50cm。  
水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょう！



### 履き物に注意!

裸足、長靴は禁物です。  
ひもで締められる運動靴が良いでしょう。



### ロープでつなげる!

はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう！  
また、水面下には危険が潜んでいます。  
長い棒を杖がわりに安全確認をしてください。



## 土砂災害から身を守るには

### 逃げ方に注意しましょう!

土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。浸水などで避難場所への避難が困難なときは、近くの頑丈な建物の2階以上や、家の中でより安全な場所（崖から離れた部屋や2階など）に移動しましょう。



# 地震・火災

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等注意到意
- 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 出火防止 初期消火
- 初期消火 消火器を使う バケツリレー
  - 漏電・ガス漏れに注意 ●余震に注意



5分

ラジオなどで正しい情報を得る

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は極力使用しない ●電話は緊急連絡を優先する

10分

協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 7日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない



数時間

3日

- ホテルの中
- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
  - 裸足で歩き回らない（ガラスの破片などでケガをする）。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- あわてずに冷静な行動をとる。

- 路上
- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。

- 近くに空き地などがいないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

- 車を運転中
- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。

- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

バスなどの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

## 消火器の使い方

粉末・強化液消火剤の場合



安全ピンに指を  
かけ上に引き抜く。



ホースをはずして  
火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。  
握れないときは消火器を置いて  
バーを手で上から押す。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



# 津波

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分を目標に津波警報（大津波、津波）または津波注意報を発表します。

## 津波警報・注意報の種類

※ 大津波警報は特別警報に位置付けられています。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の 場合の発表	
大津波 警報	予想される津波の高さが高い ところで3mを超える場合。	10m超(10m<予想高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。ここなら安全と思わず、より高い場所へ避難してください。
		10m(5m<予想高さ≤10m)		
		5m(3m<予想高さ≤5m)		
津波 警報	予想される津波の高さが高い ところで1mを超え、3m以下 の場合。	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	
津波 注意報	予想される津波の高さが高い ところで0.2m以上、1m以下 の場合であって、津波による 災害のおそれがある場合。	1m (0.2m≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。

## 津波災害警戒区域

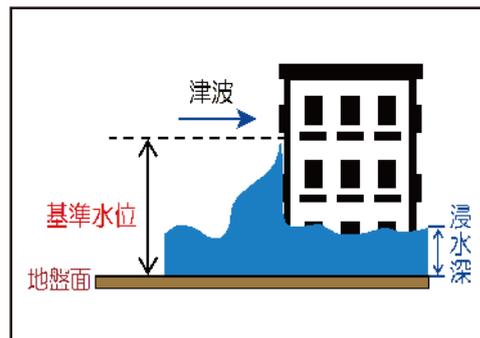
最大クラスの津波に対して津波被害を防止するため、警戒避難体制の整備を行うことにより、住民等がいざというときには津波から「逃げる」ことができるよう知事が指定する区域

## 基準水位

津波浸水想定での浸水深に、津波が建物等に衝突した際のせり上がり高さを加えた水位

## 浸水深

津波や高潮、洪水などによって、市街地や家が水で覆われる「浸水」の際に、地面から水面までの高さ（深さ）を意味します。



お住いの場所等の基準水位が確認できます。



## 警報・注意報発令時の対応

### 高い場所へ速やかに避難する

より高い場所へ、より海から遠い場所へ速やかに避難しましょう。

### なるべく徒歩で避難する

車では渋滞や危険を招く可能性があるため、なるべく徒歩で避難しましょう。

### 正しい情報を入手する

防災行政無線やテレビ、ラジオなどから正しい情報を入手しましょう。

### 河川や海岸には近づかない

地震の発生や、警報・注意報が発表された場合、海岸や河川は危険ですので、釣りや海水浴を行っている方は、速やかに海岸から離れ、高い場所へ避難しましょう。

### 避難指示に従う

避難指示が発令されたらただちに指示に従い、安全で高い場所に速やかに避難しましょう。



# 防災対策&チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

## 家の中の安全対策

### 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

### 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



### 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

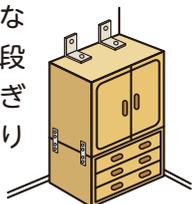
### 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

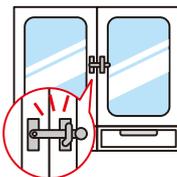
### タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



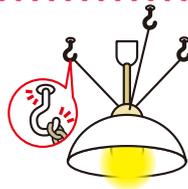
### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



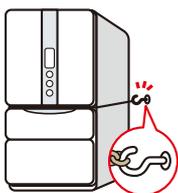
### 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



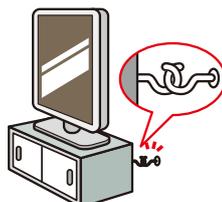
### 冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



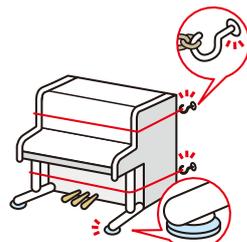
### テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



## 家の周囲の安全対策

### 屋根

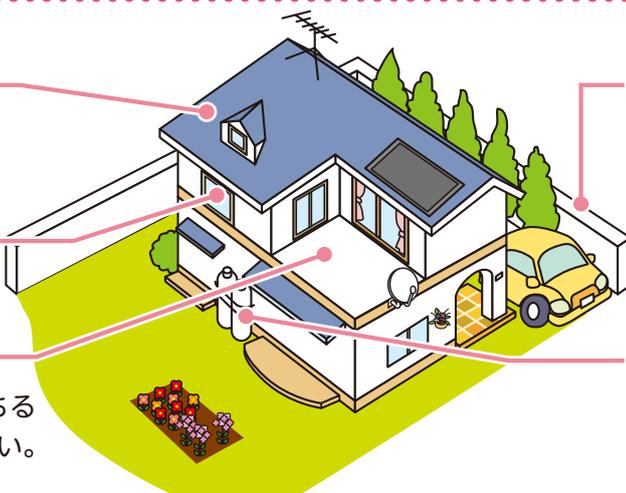
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

### 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

### ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



### ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

### プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

# 非常時持ち出し品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。  
事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

## 非常時持ち出し品（例）

### 携帯ラジオ

- ラジオ
- 電池（多めに用意）



### 救急医療品

- 常備薬
- 鎮痛剤
- 傷薬
- 包帯



### 貴重品

- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- マイナンバーカード
- 健康保険証



### 懐中電灯

- 懐中電灯  
（できれば一人にひとつ）
- 電池（多めに用意）



### 非常食品等

火を通さずに食べられるもの、食器など

- 非常用食品
- 紙皿
- 缶切り
- 缶詰
- 紙コップ
- ミネラルウォーター



### その他

- 衣類（下着・上着など）
- 生理用品
- 離乳食
- ウェットティッシュ
- ラップフィルム  
（止血や食器にかぶせて使う）
- 防災マップ（本書）

- タオル
- 乳幼児製品
- カップ
- ライター
- 携帯電話・充電器
- マスク
- 体温計
- アルコール消毒液

- スリッパ
- 手洗い石鹸



## 非常時用備蓄品（例）

災害復旧までの数日間（最低7日）を生活できるようにチェック☑しましょう。

### 飲料水

- 飲料水としてペットボトルや  
缶入りのミネラルウォーター  
（1人1日3リットルを目安に）
- 貯水した防災タンクなど



### 非常食品

- お米（レトルト・アルファ米も便利）
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ（菓子類など）



### 燃料

- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料



### その他

- 生活用水（風呂・洗濯機などに貯水）
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具（なべ・やかんなど）
- バケツ・各種アウトドア用品など



## ローリングストックをはじめよう！

### ローリングストックとは、使いながら備蓄する事

普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、日常で使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食材を家に備蓄しておく方法を“ローリングストック”と言います。

日常の食事で消費しながら備蓄するのがポイントです。

備蓄品の鮮度を保ち、いざというときにも日常の食事に近い食生活を送ることができます。



# 感染症対策・被災したときの生活再建

災害が発生した場合の避難所では、密閉した空間の中での集団生活等により新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザや風邪等の感染症のリスクが高まる恐れがあります。少しでも感染リスクを軽減するために次のことについて、地震や風水害発生時の避難に備えて平時から準備をお願いします。

## 避難者の健康状態の確認

避難者の健康状態を確認するため、避難所に入られる際は、ご自宅での体温測定にご協力願います。なお、発熱、咳などの症状がある方は、かかりつけ医に相談し、可能であれば旅館やホテル等での避難も検討してください。

## 親戚や知人の家、ホテル、旅館などへの避難の検討

避難時に、避難所が過密状態になることを防ぐために、可能な場合は親戚や知人の家、ホテル、旅館などへ避難することを検討しておいてください。

## 手洗い、咳エチケット等の基本的な対策の徹底

避難者は頻繁に手洗いをするとともに、咳エチケット等の基本的な感染対策を徹底しましょう。他の人と2m以上離れ、会話も必要最小限にしましょう。

## 避難所の衛生環境の確保

避難者が共有する物品やスペースは定期的に、家庭用洗剤を用いて清掃するなど、避難所の衛生環境をできる限り整えましょう。

なお、避難所の備蓄品には限りがあります。水や食料品などに加え、自身の健康状態を確認するために体温計を持参するなど、可能な限り必要なものは持参してください。



## りさい 罹災証明書

## 被災者の生活再建に！

●罹災証明書とは、災害で住家に被害を受けた方の申請により、被害の程度を証明する書面として市町村長が交付するものです。罹災証明書は、下記のような被災者支援制度の適用の判断材料として活用されるものです

- ▶被災者生活再建支援金を受給する場合
- ▶被災者向けの融資を受ける場合
- ▶保険料の減免などを受ける場合
- ▶義援金を受給する場合
- ▶税金の減免などを受ける場合
- ▶応急仮設住宅への入居の場合

●証明書の発行にあたっては、村職員が現地で被害状況の調査を行い、「全壊」「半壊」「一部損壊」等の区分で被害の程度を判定します。

※火災で住家に被害を受けた場合は、ニライ消防本部予防課での手続きとなります。

※罹災証明書は、地震で被災した建物が今後の余震等で崩壊するなどの危険がないか調査する被災建築物応急危険度判定とは目的が異なるため、その2つの判定結果に違いが生じる場合があります。

# 防災に関する知識

## 緊急時の連絡先

消防・救急は **119**番

警察は **110**番

読谷村役場 総務課 **098-982-9201**番

### 日常の心得

災害は、いつ発生するかわかりません。日頃からの備えが大切です。日頃から気象情報について、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどを通じて把握するよう努めましょう。

## 連絡方法の確認

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

社団法人電気通信事業者協会 <<災害時の電話の利用方法>>	<a href="https://www.tca.or.jp/information/disaster.html">https://www.tca.or.jp/information/disaster.html</a>
NTT西日本 <<災害用伝言ダイヤル171>>	<a href="https://www.ntt-west.co.jp/dengon/">https://www.ntt-west.co.jp/dengon/</a>
NTTドコモ <<災害用伝言板サービス>>	<a href="https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/index.html">https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/index.html</a>
au <<災害用伝言板サービス>>	<a href="https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/">https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/</a>
SoftBank <<災害用伝言板サービス>>	<a href="https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/">https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/</a>

## 防災アプリや防災情報を活用しましょう

災害時には自ら情報収集をすることが重要です。



地震・津波・豪雨・台風などの災害に関する警報がスマホに通知されるため、テレビやラジオで確認できない状況でも災害の状況を迅速に把握することができます。また、現在いる場所の最新情報をスマホから情報収集することができます。

### 読谷村公式ホームページ

読谷村の最新情報を確認することができます。



### 沖縄県防災情報ポータル

発表されている避難情報や気象警報等を確認することができます。



### 読谷村公式LINE

読谷村の最新情報を確認することができます。



### 沖縄県河川情報システム

比謝川等の推移状況を確認することができます。



### 読谷村 防災に関する各種マップ

防災マップのほか各種災害に関するマップを確認することができます。



### 沖縄電力ホームページ

停電情報を確認することができます。



### 気象庁 あなたの街の防災情報

自分が住んでいる地域の気象情報を確認することができます。



### Multilingual News & BOSAI info

多言語で様々なニュースや防災情報を確認することができます。



### 防災行政無線が聞き取りにくいとき

防災行政無線が聞き取りにくいときの対応として、放送内容を電話やメールで確認することができます。  
☎098-958-4612

登録制メールは、下記のアドレスまたは右のQRコードから空メールを送信してください。  
bousai.yomitan-vil@raidan2.ktaiwork.jp



# 防災メモ

## 家族の連絡先

氏名	生年月日	血液型	電話(会社・学校)	住所	メモ

## 親戚・知人の連絡先

氏名	電話	住所	メモ(家族との関係など)

## 避難所

避難所
家族の集合場所

## 災害時の連絡方法を覚えておきましょう

電話が混み合う災害時に、家族や支援者との安否確認に役立つのが、NTTの「災害用伝言ダイヤル」や携帯電話各社の「災害用伝言板」です。震度6以上の地震などの大規模災害時に稼働します。

**災害用伝言ダイヤル「171」の使い方** ※音声案内が流れるので、それに従って落ち着いて利用しましょう。

**伝言の録音方法** 171 ▶ 1 ▶ **被災地の人の電話番号(市外局番から)** ▶ **伝言を吹き込む**

**伝言の再生方法** 171 ▶ 2 ▶ **被災地の人の電話番号(市外局番から)** ▶ **伝言を聞く**

「災害用伝言ダイヤル171」サービスを体験できます。(毎月1日、他)<sup>ついでに</sup>

- 詳しくはNTT及び携帯電話会社にお問い合わせ下さい。
- 実際に災害が発生した際には体験サービスの利用ができない場合があります。